

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1471902807
法人名	株式会社 小林留次郎商店
事業所名	グループホーム チェリーホーム衣笠
訪問調査日	平成24年7月20日
評価確定日	平成24年8月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

**○項目番号について**  
外部評価は20項目です。  
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法**  
[取り組みの事実]  
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
[次ステップに向けて期待したい内容]  
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
家族 = 家族に限定しています。  
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
  
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471902807	事業の開始年月日	平成17年9月1日	
		指定年月日	平成17年9月1日	
法人名	株式会社 小林留次郎商店			
事業所名	グループホーム チェリーホーム衣笠			
所在地	( 238-0031 ) 横須賀市衣笠栄町3-21-2			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	8名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成24年7月6日	評価結果 市町村受理日	平成24年10月15日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者一人一人の個性を大切に、できること・できないことをスタッフ間で共有しその方に合った暮らしができるように支援しています。また、共に生活する「仲間」として日々笑い合える関係を築けるようご家族を含め関係作りに努めています。</p>
--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成24年7月20日	評価機関 評価決定日	平成24年8月31日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>①このホームは(株)小林留次郎商店の経営である。社名は祖父の経営していた会社の名称を継承したもので現在はグループホームの経営のみである。チェリーホームは馬堀での展開をスタートにここチェリーホーム衣笠と三浦市のチェリーホーム油壺の3ホームを経営している。ここチェリーホーム衣笠は地域的には、JR衣笠駅から徒歩7分程度の国道沿いで、三浦高校が道の反対側に位置し、商店街の一角と云う都市型のホームである。事務所が多く、町内会が一時活動が無い時代があったが、広域合併・再編成された町内会の会員となり、お祭りや盆踊りに参加できるようになった。また、隣の平作商店街の武者祭りのパレードも見て楽しんでいる。横須賀市中学校(2校)の体験学習を受け入れる等、徐々に地域との関係を深まってきた。</p> <p>②理念の展開については、開所からほぼ7年を経過し定着したが、最近、利用者の交代、職員の交代があり、共にやや若返り、利用者はADLの良い活動可能な方が増え、新しい職員への理念の周知が必要と感じ、理念のうち、利用者「楽しい」生活を送って頂くと言う点に着目したホーム方針を示し、ADLの良い利用者「楽しんで」頂ける展開を図り、ドライブで自宅付近にお連れすることも含めた地域との交流にも力を入れるよう努めている。介護計画はセンター方式を活用したアセスメント、モニタリング、カンファレンスを定着させている。介護の状況については、利用者個別に、お便りに写真を添えて状況をお知らせし、連携を取っている。具体的な情報については、個人別の介護日誌の内、特徴的な日、お知らせしたい日の日誌を抜粋コピーして、月2～7枚程度を添付してお届けしている。また、職員のレベル差、文章の巧拙、ストレートな表現等、ご了解頂きながら、実際の生活を知り、認識して頂きながらご家族と一緒にケアが出来るよう努めている。</p> <p>③職員の教育については、前述のように年配の職員の退職によりやや若返った新しい職員の教育が必要と感じ、先ず、介護に於ける認識の統一・共有化を推進するため、馬堀のチェリーホームが身体拘束廃止のモデル指定施設であることで、「身体拘束廃止委員会」をこのチェリーホーム衣笠内に水平展開し、1ユニットなので全員を委員とし、教育を兼ねて推進している。特に言葉の問題などボーダーラインなどを検討し、教育に活用している。</p>
---

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム チェリーホーム衣笠
ユニット名	

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中での関わりを大切に、管理者は理念達成に取り組んでいる。また、職員は管理者の姿勢を見ながら理念を共有し日々取り組んでいる。	理念の展開については利用者の交代、職員の交代があり、共にやや若返り、利用者はADLの良い活動可能な方が増え、新しい職員への理念の周知が必要と感じ、理念のうち、利用者に「楽しい」生活をおくって頂くと云う点に着目したホーム方針を示し、ADLの良い利用者「楽しんで」頂けるよう展開を図り、ドライブで自宅付近にお連れすることも含めた地域との交流にも力を入れるよう努めている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のお祭りや盆踊り等には積極的に参加している。お買い物には近くのお店を利用したり、郵便局に寄ったりして地域とのつながりを保てるように関係作りをしている。	町内会が一時活動が無い時代があったが、広域合併・再編成された町内会の会員となり、お祭りや盆踊りに参加できるようになった。また、隣の平作商店街の武者祭りのパレードも見て楽しんでいる。横須賀市中学校の体験学習を受け入れる等、徐々に地域との関係を深まってきている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お年寄りを抱えるご家族より、時々介護相談を気軽に受け入れ地域の人々に役立てられるよう取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度、構成員の変更があったがすでに委員の皆様同士も温かみのある関係で貴重なご意見、助言が頂け大変感謝している。	運営推進会議は民生委員、地域代表（地域推進委員の方）、家族代表、それにホーム関係者であり、年1回は横須賀市職員の参加がある。ホームからは状況報告を行い、福祉に関する勉強会を加え、以降、委員の皆様より貴重な助言を頂いている。委員の皆様同士は打ち明け、施設の内容もご理解頂き、協力を頂いている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	業務に疑問が発生する度に行政の担当者にご迷惑をおかけし、ご指導いただき感謝している。今後も、自助努力は当然だが行政の指導を賜りサービスの向上に努めていく。	横須賀市は福祉行政に熱心であり、業務に疑問が発生する度に、市役所の担当者にご指導頂いている。今後も自助努力は当然だが、市役所の指導を賜り、サービスの向上に努めて行く。また、横須賀市のグループホーム連絡会は非常に熱心であり、職員のスキルアップの勉強会を度々開催し、事例検討を中心として、ターミナルケア、看取り、ひもときシートなど重いテーマも組み入れ職員の交流とレベルアップを図っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で「身体拘束廃止委員会」を設置し、施設長を委員長としスタッフ全員を委員会メンバーとして月1回のスタッフ会議の際、身体拘束についての勉強会、話し合いを持っている。	全ての職員が、施設内、外の研修や指導において、身体拘束の具体的な行為とそれによる弊害を理解している。馬堀のチェリーホームが身体拘束廃止のモデル指定施設であることで、「身体拘束廃止委員会」をこのチェリーホーム衣笠内に水平展開し、1ユニットなので全員を委員とし、教育を兼ねて推進している。特に言葉の問題などボーダーラインなどを検討し、教育に活用している。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修にも職員の参加を順次積極的に促し虐待防止に対する意識を高めており、代表者、管理者により常に厳しく徹底し職員もその重要性を認識し介護にあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、この制度を利用している入居者の方がおり、この事業に関わる職員として制度を熟知する為外部の研修等にも積極的に参加し、内部研修も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、努めて複数の親族などに参加して頂き入念に説明し、努めて契約書を持ち帰って頂き納得した上で日を改めて締結するよう配慮している。平成17年にこの事業を解説して以来、円滑に事業を展開している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に無記名の投書箱を備え付けてあるが、入居者の方でこの制度を活用できる方は居らず、家族の皆様を活用をお願いしている。尚、行政にも苦情受付の窓口があることを徹底している。	ご家族はご意見をなかなか云われませんが、9月の敬老会を緩やかな家族会とし、頂いたご意見を少しでも実現出来るよう活動を続けている。外部評価のアンケートの纏めも活用している。施設内に無記名の投票箱を備え付けて、家族等の皆様を活用をお願いしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の運営、活性化の為毎月スタッフ会議を開催し、職員の意見を尊重し「業務改善意見」を奨励し反映している。また、介護に対する意欲の増進及び業務の反映、活性化に役立っている。	利用者については日頃の発言や行動を個人記録に記載し、ご家族の要望等は来訪時にお聞きし改善に活用している。業務の運営、活性化の為、毎月職員会議を開催し、職員の意見を尊重し、「業務改善意見」を奨励している。また、介護に対する意欲の増進及び業務の反映、活性化に役立っている。具体的な情報については、個人別の介護日誌の内、特徴的な日、お知らせしたい日の日誌を抜粋コピーして、月2～7枚程度を添付してお届けしている。するようにしている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には、処遇改善手当を支給し代表者はやりがいを持てるよう配慮している。また、個人に合せた勤務体制をとり、職員は理念に基づき自由に働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員は個人の力量に見合った外部研修にも勤務を調整し参加しており、施設内への普及研修につなげ、介護のレベルアップに努めている。資格取得に関してもバックアップする体制をとっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内の研修会及び同業者の施設見学会や、複数事業所連携事業による勉強会を通じ、ネットワークづくりと共にサービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族、担当ケアマネージャー等より詳細にわたりお話を伺い特に本人が困っていること、不安に思っていることを引き出せるよう傾聴し、解消されるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際し、家族の不安を払拭することに時間をかけている。特に、家族の要望や意向に対しては見学の段階からよく話を伺い信頼関係が築けていけるよう随時確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	私たちの施設の長所・短所を率直に説明しご理解を仰ぎ、経済的な問題などにも考慮し状況により他の施設を紹介し抱え込まないように配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごすことを前提に、楽しみや悲しみ、苦しみや痛みを分かち合い、一緒に笑ったり涙したり、入居者とは親族どうよの信頼を築き、共に支えあっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、近況報告のお便りを送付し遠方の親族等には積極的な支援を呼びかけ結果を期待している。また、面会時には家族としての心配や不安等、気兼ねなく話して頂き一緒に入居者を支えあう関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた町内、知人等より疎遠にならないようにドライブを兼ね積極的な接点を目指し今後も継続して支援する。	地元の方が多く、住んでいた町は懐かしいと考えているので、車での遠出の折にはご自宅の付近を通るようにし、車窓から見て頂き風景を楽しんで頂くと共に、たまに古い知人に逢って頂いたりしている。今後も継続して支援して行く。ADLのの良い利用者が増えたこともあり、外出、レクリエーションに力を入れて行きたいと考えている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士何気なく隣同士に座ってもらい会話を交わす糸口を作ったり、「個」にならないように「仲間」づくりができるような雰囲気作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移った時には、今後の生活に支障がないようなグループホームでの生活状況を通知し、共有していただき、本人・家族等が孤立等の問題に遭遇した場合は全面的に支援する。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	重度の認知症の入居者からの思いや意向の把握は大変困難で苦慮しておりますが、親族等からの情報や入居前の生活を考慮した職員が本人の視点に立って思いや意向の把握に取り組んでいる。	重度の認知症の利用者の思いや、意向の把握は困難な思いでもあるが、センター方式のアセスメントを活用し、親族等からの情報や入居前の生活を併せて考慮し、センター方式により職員が本人の視点に立ち、本人の思いや意向の把握に努め取り組んでいる。具体的な情報については、個人別の介護日誌の内、特徴的な日、お知らせしたい日の日誌を抜粋コピーして、月2～7枚程度を添付してお届けしている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーの問題もあり把握は困難であるが、入居者個々の歴史や経過を把握することは重要である為家族との信頼感の確保により把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできること・できないこと、分かる事を把握するのは大切であるため日々の行動や会話、しぐさ等見逃さないよう細心の注意を払いスタッフ間で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らす為にどんな支援が必要か、本人または家族等の意見を参考に、毎日の生活、過去の生活を参考に検討しスタッフ会議にて意見を出し合い、計画を作成している。	本人がより良く暮らす為にどんな支援が必要か、センター方式のアセスメントを活用したフェイスシートを改良し、親族等からの情報や入居前の生活をより詳しく知り、バックグラウンドを充分知った上で利用者個々の現状に即した介護計画を作成している。介護計画の作成に当たっては職員会議にて意見を出し合い作成するようにしている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は毎日(1日3回)表情の変化や仕草や言葉など小さな変化も介護日誌に記入し情報を共有すると共に介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族等の要望により、一時帰宅等の要望があれば送迎を含み臨機応変に対応している。また、通院等も家族の事情を考慮し対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会には加入しており、町内のお祭りや盆踊り、餅つきなどで利用させていただいている。今後、地域包括支援センターや地域のボランティア等、必要に応じて支援協働いただける体制作りをしていく。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を最優先させている。かかりつけ医より他科受診の指示があればその都度家族に説明している。尚、医療連携については本人・家族等の了承を得ている。	提携したかかりつけ医(月2回の往診)があり、自宅に主治医のいる方でも、入所に際しご家族は毎月の定期健診(往診)を望まれ、全員そのかかりつけ医を受診をしている。医療連携については本人、家族の了承を得て実施している。その他では訪問歯科が週1回、精神科医師が月1回、専属の看護師週1回来て	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の生活の中から個別の健康管理を実施している。その上で、看護職員(医療連携)により自身の可否等の判断を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者が発生した場合は、家族、病院と協議し、協働連携している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度の入居者に対しては主治医の指導の下で定期往診を始め、適切に対応し終末期に向けて家族との話し合いをその都度設け必要に応じ主治医も柔軟に家族への説明を行っている。みどりへの方針については、家族、介護、看護職員と主治医を含めたチームで対応している。	重度の利用者に対しては、かかりつけ医の指導の下で定期往診を始め適切に対応に努め、終末期に向けてその都度、家族との話し合いを設け、介護等の対応方針について介護、看護職員とかかりつけ医を含めたチームで対応している。最近、ターミナルケアを1例経験し、医師の宣言があり、ご家族が泊まり込みで付き添い行った。ご家族からも感謝されている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホーム協議会の講習を通して殆どの職員が普通救命の講習を受け、急変や緊急時に対応できるよう備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災管理者を選任し、毎年度火災や災害等の緊急時に備え訓練を行っている。	防災管理者を選任し、毎年度火災や災害等の緊急時に備え、年2回の訓練を行っている。運営推進会議などの関係で地域の消防訓練にも参加している。新人職員もいるので避難訓練を重点的に行っている。避難について、2階は状況に応じてベランダへの誘導も含めての訓練を消防署に指導を受けている。備蓄は水とレトルト食品、衛材など考えている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重した上で、その方に合った言葉や分かりやすい態度で対応している。	職務規定にプライバシーの尊重とそれに沿ったケアの展開を規定し、それを遵守している。個々の人格を尊重した上で、その方にあった言葉かけやわかりやすい態度で対応している。毎月の職員会議でもプライバシーについての話し合いを持ち、守秘の徹底に努めている。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で意図的に選んで頂く場面を作っている。また、会話の中でも思いや希望を表せるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のペースやリズムに合わせ、そのときに「やりたいこと」や「行きたいところ」を汲み取り実行に移している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をされている方は化粧品は自己管理としている。自分で管理することによりお化粧をすることを忘れないことができています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が同じ食事を一緒に楽しみながら食べることで食べ方の混乱や食べこぼしに対する支援をさりげなく実施。個人の力によって器や盛り方を変えている。盛り付けや片付けも見守り、声かけしながら個々に出来る事を見極め行っている。	食事はメニュー付、カロリー計算された食材会社を活用し利用者と職員が同じ食事を楽しみながら一緒にし、食事介助の方にはさりげなく行うようにいる。お皿の盛りつけや後片付けも見守り、声かけしながら、利用者個々に出来ることを見極めながら行って頂いている。行事食は食材会社を使わず自分でメニューを決めて作っている。外食は今まではADLの悪い方が多かったので行っていなかったが今後は外食も取り入れて行きたい。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人の食事、水分の一日の摂取量を把握し介護日誌へと記載し、バランスを確保するよう努力している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き、義歯の手入れ、出血や炎症のチェック等、入居者の力を引き出しながら口腔内の清潔を日常的にそれとなくチェックしている。週1回の歯科往診の際には口腔内の変化や痛みなどを報告している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを表にて把握し、さりげない声掛けやトイレへの誘導を行い不快なく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの利用者の排泄パターンを表に記し、把握に努め、職員のさりげない声かけやトイレへの誘導を行い、利用者が不快なく排泄できるように自立に向けた支援を行なっている。ADLの良い方が増えたのでおむつの方はおらずパットか紙パンツで、自立主体で手引き誘導で行っている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便を促す為、水分補給、繊維食品及び運動等毎日の生活の中で継続的に対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者はおおむね希望通り実施している。意思表示が困難な方に対しても状態を観察しながら入浴を促している。	入浴については、利用者のほぼ希望に沿いながら実施している。意思表示が困難な方に対しても、状態を観察しながら入浴を促している。最低、週3回の入浴を行っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	多くの方は薬も使わずに安眠できている。日勤者、夜勤者間の申し送りをしっかり行い、夜眠れない入居者には日中の活動に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について職員はある程度把握している。なお新しく処方される際には主治医または薬剤師に解説を受けている。日常の変化、状況については細部にわたり看護師、医師に報告するよう努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの入居者の特技、趣味を把握することで生きがいにつながるよう支援している。裁縫がお好きな方や外に出るのが好きな方など一人一人楽しみは違う為その方に合ったものを選んで貰っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の方々のその日の気分や希望に合わせて近所のコンビニや公園、商店街、郵便局等事業所の中だけにとどまることが内容、散歩や外出の支援をしている。	利用者の気分や希望に合わせて近所のコンビニや公園、商店街、郵便局などへ出かけておる。ドライブの際には自宅付近や馴染みの道、景色を楽しみ、懐かしめるよう支援している。公園までは線路沿いの裏道で行き、郵便局では散歩の途中で休ませてもらう等、ご協力を頂いている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持していないと不安になったりご自身で買い物をするのが楽しみな方も居られるが、自己管理できないためおこづかい帳をつけこちらで管理しており買い物に出かける際には使って楽しんで頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を掛けない肩が多数を占めているが、それとなく誘い、毎年ご家族への年賀状は書いていただいている。また、電話のダイヤルを支援すれば会話はできる方はおおいので状況を判断し実施している。	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を時々ご近所の方が差し入れてくださり明るく心地の良い環境を確保している。食堂は台所と同空間であるため、食事の支度風景や香りが入居者の方々へ届くようにしている。	空間は、明るく居心地の良い環境が確保できている。ご近所の方が差し入れて頂いた季節の花を飾り季節感を取り入れたり、食堂は台所と同空間であり、食事の支度風景や香りが利用者の方々へ届く生活を伝える工夫がある。また、大型テレビ、有線放送の活用、写真の飾り付け等、楽しいリビング作りに努めている。現在、サンルームの外にゴーヤを植え、個人別に植えた苗に名前を付けグリーンカーテンになることを楽しみに育てている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・ダイニングにはサンルームとしてソファを設け、こじんまりとした家庭的な空間で、自由に仲間、家族と使用できるよう常に配慮している。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や以前本人が手がけた作品などを飾り落ち着いた雰囲気を確保し、入居者それぞれの好みに応じた居室を作っている。	居室は、使い慣れた家具を配置し、落ち着いた雰囲気を確保し、利用者それぞれの好みに応じた居室となっている。また、利用者の要望があると、利用者と共に居室内の模様替えも行い、居心地よく過せる配慮をしている。エアコンの他整理ダンス、ベッド、防煙カーテンなどもホームで準備し負担を軽減し喜んで頂いている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行に不自由な方もトイレ、廊下等にも手すりを付け自立で移動できるようにし、その方に合った介助の方法を職員で話し合い成果を挙げている。	/	

# 目 標 達 成 計 画

事業所      グループホーム  
                 チェリーホーム衣笠

作成日

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

平成24年8月20日

〔目標達成計画〕

優 先 順 位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	13	職員の入れ替わりもあり、初歩的なことから専門的なことまで、サービスの質を変えないよう、又、向上していく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の質の向上。</li> <li>・サービス（ケア）の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市グループホーム協議会による交換研修の実施</li> <li>・複数事業所研修への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月中</li> <li>・12月中</li> </ul>

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。